

自由民主党復党のご挨拶

今般私は、新たな行動を決意いたしました。

それは次世代の党を離党し、あえて古巣の自由民主党に戻り、政権党の中で改憲状況を前進させるということでもあります。

私が政治を志し、生涯を国政とふるさと岡山の発展に捧げてきた最大の目的は今更申すまでもなく「自主憲法の制定」です。今日まで一貫して、わが国の独立と国民の安全をしっかりと守ることができ体制を構築することが日本の未来と国民の幸福にとって最も重大な政治の課題だと訴えてまいりました。

しかし、今のままの政治状況では、国際情勢の変化に対応した安全保障体制の構築も、ましてや憲法改正も極めて困難です。未だ解決の目処の立たない拉致被害者救出、中国の軍事的台頭など日々悪化する国際情勢を見ると、これ以上の政治の停滞は許されないと、思い焦燥感が募るばかりです。

「憲法を変える」ということは、与党が衆参両院の三分の二を占めればできるということではありません。国民的な議論を深め、憲法改正に真剣に取り組む野党の存在もなければ実現できません。

しかし肝心の与党が、国民の安全と将来の日本のために不退転の決意で臨まなければ、憲法改正ができないのも事実です。

次世代の党が中山恭子新代表の下で新しい体制へと移行した今、私もまた、憲法改正の動きを更に推進するために、自由民主党復党という決断に至りました。

これまで惜しみないご支援をお寄せいただいた多くの皆様に感謝申し上げますと共に、ご理解を賜りますようお願い申し上げます。

現在、私は不本意ながら体調を崩しており、幸い大事には至らなかつたものの、この際徹底的に療養に努めて万全の状態で公務復帰をしたいと考えております。ご心配をお掛け致しますが今後ともご指導ご鞭撻のほど重ねてよろしくお願い申し上げます。

平成二十七年 十月

衆議院議員

平沼赳夫